

3. 地球温暖化

(1) 地球温暖化についての関心度

①温暖化についての関心度

問 11 あなたは地球温暖化問題に関連する1～5のそれぞれの項目について、どの程度関心をお持ちですか。(○はそれぞれ1つつ)

■各項目とも関心度は高いが、「大気・気象の異常」が最も関心度が高い

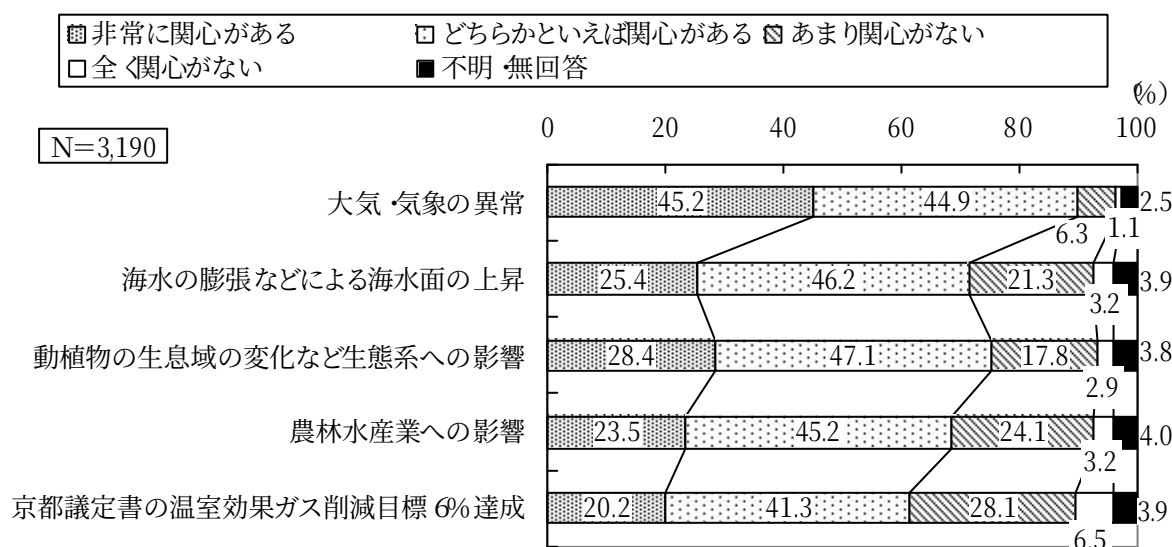
地球温暖化に関して

- ・大気・気象の異常
- ・海水の膨張などによる海水面の上昇
- ・動植物の生息域の変化など生態系への影響
- ・農林水産業への影響
- ・京都議定書の温室効果ガス削減目標 6%達成

の5項目について関心度をきいた。

5つの項目とも関心度(「非常に関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計)は60%を超えている。特に「大気・気象の異常」については関心度が90.1%で5つの項目の中で最も高くなっている。次いで「動植物の生息域の変化など生態系への影響」の関心度が75.5%となっている。

最も関心度が低かったのは「京都議定書の温室効果ガス削減目標 6%達成」で、関心度は61.5%となっている。



【地域別】

各地域とも関心度に大きな差はなく、「大気・気象の異常」の関心度が最も高い。

地域別の関心度（「非常に関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計）（％）

地 域	大気・気象の異常	海水の膨張などによる海水面の上昇	動植物の生息域の変化など生態系への影響	農林水産業への影響	京都議定書の温室効果ガス削減目標 6% 達成
合 計	90.1	71.6	75.5	68.7	61.5
大津・志賀地域	89.4	74.5	79.7	69.1	64.0
湖 南 地 域	93.2	72.3	79.6	69.1	64.5
甲 賀 地 域	88.6	71.5	77.2	68.0	60.0
東 近 江 地 域	89.7	67.7	68.4	63.2	59.5
湖 東 地 域	92.3	74.4	80.6	74.4	63.4
湖 北 地 域	87.7	70.6	69.1	69.2	56.9
湖 西 地 域	85.2	64.7	64.8	71.2	54.9

【性別】

「動植物の生息域の変化など生態系への影響」、「農林水産業への影響」、「京都議定書の温室効果ガス削減目標 6%達成」については、男性と女性で関心度に差がみられる。

性別の関心度（「非常に関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計）（％）

性 別	大気・気象の異常	海水の膨張などによる海水面の上昇	動植物の生息域の変化など生態系への影響	農林水産業への影響	京都議定書の温室効果ガス削減目標 6% 達成
男 性	90.7	72.1	78.3	72.5	65.0
女 性	90.1	71.8	73.7	66.1	58.8

【性・年代別】

「大気・気象の異常」については、男女とも各年代で高い関心度となっている。「海水の膨張などによる海水面の上昇」、「動植物の生息域の変化など生態系への影響」については、男女とも 70 歳以上の関心度が他の年代に比べて低くなっている。

「農林水産業への影響」は、男性では 40 歳代以上、女性では 50 歳代、60 歳代で関心度が 70%を超えており、特に男性の 40 歳代が 80.1%で最も高い。

「京都議定書の温室効果ガス削減目標 6%達成」については、20 歳代を除き各年代とも女性より男性の関心度が高い。また、男性では 40 歳代と 60 歳代の関心度が 70%を超えており、他の年代に比べて高い。

性・年代別の関心度（「非常に関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計）（％）

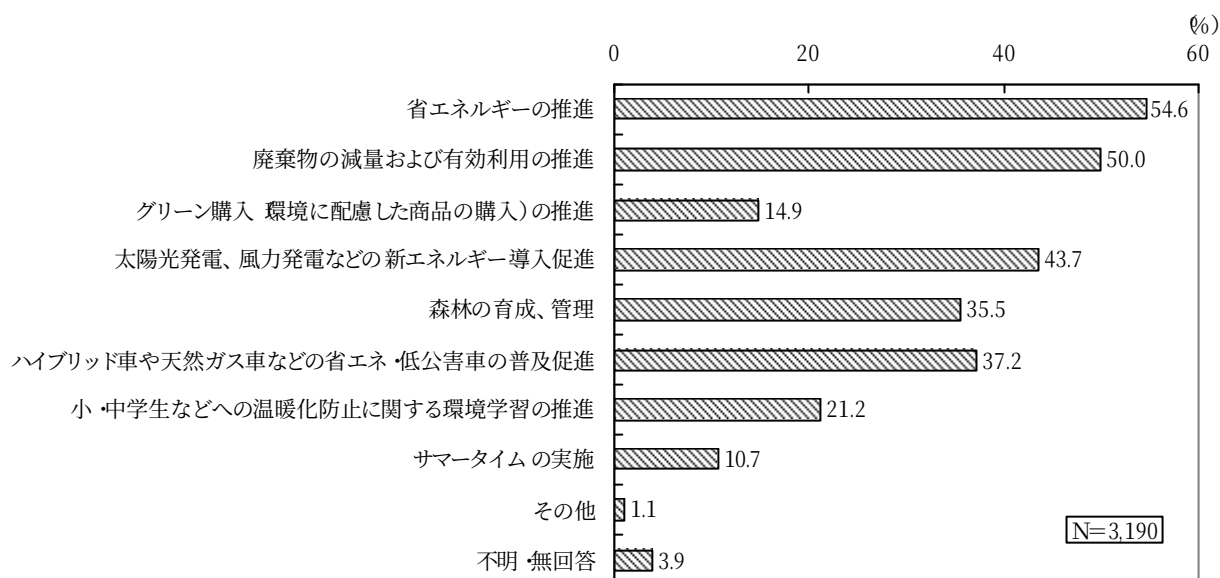
性別	年 代	大気・気象の異常	海水の膨張などによる海面の上昇	動植物の生息域の変化など生態系への影響	農林水産業への影響	京都議定書の温室効果ガス削減目標 6％達成
男 性	20 歳代	90.2	72.3	82.6	58.7	50.6
	30 歳代	93.5	76.3	79.6	63.5	57.5
	40 歳代	94.3	80.5	82.6	80.1	71.7
	50 歳代	90.4	72.5	76.5	73.0	66.9
	60 歳代	92.1	72.9	84.1	75.8	77.0
	70 歳以上	84.0	58.6	65.4	77.6	59.1
女 性	20 歳代	92.8	78.6	79.1	58.2	58.2
	30 歳代	90.9	77.0	76.2	64.5	55.1
	40 歳代	95.2	73.4	78.3	69.7	58.3
	50 歳代	90.9	75.7	76.6	74.4	64.2
	60 歳代	89.7	74.3	75.4	70.9	64.0
	70 歳以上	81.0	51.1	56.7	54.1	50.0

②温暖化防止策についての関心度

問 12 あなたは、温暖化防止対策としてどのような取組に関心がありますか。
(○は3つまで)

■省エネルギーや廃棄物の減量への関心度が 50%を超える

温暖化防止対策として最も関心が高いのが「省エネルギーの推進」で 54.6%、次いで「廃棄物の減量および有効利用の推進」が 50.0%となっている。また、「太陽光発電、風力発電などの新エネルギー導入促進」が 43.7%となっている。



【地域別】

地域により大きな差は見られず、「省エネルギーの推進」、「廃棄物の減量および有効利用の促進」、「太陽光発電、風力発電などの新エネルギー導入促進」の3項目が多くなっている。

また、「ハイブリッド車や天然ガス車などの省エネ・低公害車の普及促進」は、大津・志賀地域が 43.6%となっており、唯一 40%を超えている。

【性別】

男女とも「省エネルギーの推進」、「廃棄物の減量および有効利用の促進」、「太陽光発電、風力発電などの新エネルギー導入促進」の3つの項目が多くなっている。「省エネルギーの推進」と「廃棄物の減量および有効利用の推進」は女性が男性を上回っているが、「太陽光発電、風力発電などの新エネルギー導入促進」は男性 (51.0%) が女性 (37.6%) を 13.4 ポイント上回っている。

また、「ハイブリッド車や天然ガス車などの省エネ・低公害車の普及促進」は、男性 (43.1%) が女性 (32.5%) を 10.6 ポイント上回っている。

【性・年代別】

男性では 20 歳代、30 歳代で「ハイブリッド車や天然ガス車などの省エネ・低公害車の普及促進」が最も多い（20 歳代 62.5%、30 歳代 51.1%）。40 歳代では「太陽光発電、風力発電などの新エネルギー導入促進」が 54.7%で最も多い。50 歳代と 70 歳以上では「省エネルギーの推進」が最も多く、50 歳代 58.2%、70 歳以上 57.0%となっている。また、60 歳代では「廃棄物の減量および有効利用の促進」が最も多く 54.7%となっている。

女性では 50 歳代を除き、全ての年代で「省エネルギーの推進」が最も多くなっている。50 歳代では「廃棄物の減量および有効利用の促進」が最も多く 61.4%となっており、「省エネルギーの推進」が 59.2%となっている。

(2) 温暖化防止対策の実践状況

①地球温暖化防止につながる省エネルギーの行動についての実践状況

問 13 あなたは、地球温暖化防止につながる省エネルギーの行動を実践していますか。
1～7のそれぞれの項目についてお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

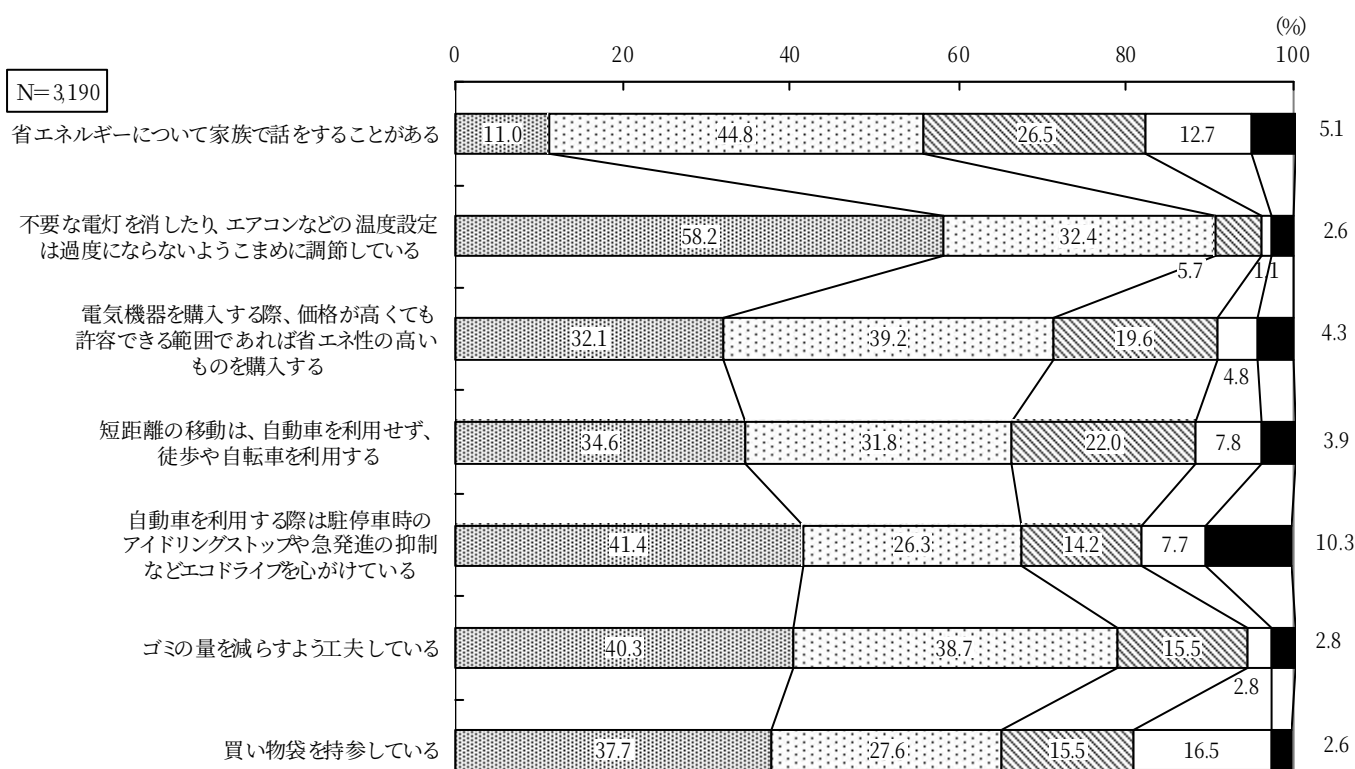
■「不要な電灯を消したり、エアコンの温度調節」を「いつも実践している」が58.2%

地球温暖化防止につながる省エネルギーの行動について、以下の7つの項目で実践状況をきいた。

- ・省エネルギーについて家族で話をすることがある
- ・不要な電灯を消したり、エアコンなどの温度設定は過度にならないようこまめに調節している
- ・電気機器を購入する際、価格が高くてでも許容できる範囲であれば省エネ性の高いものを購入する
- ・短距離の移動は、自動車を利用せず、徒歩や自転車を利用する
- ・自動車を利用する際は駐停車時のアイドリングストップや急発進の抑制などエコドライブを心がけている
- ・ゴミの量を減らすよう工夫している
- ・買い物袋を持参している

地球温暖化防止につながる省エネルギーの行動実践については、「不要な電灯を消したり、エアコンなどの温度設定は過度にならないようこまめに調節している」が最も実践率（「いつも実践している」と「たまに実践している」の合計）が高く90.6%に上っている。特に「いつも実践している」の割合が高く58.2%となっている。次いで「ゴミの量を減らすよう工夫している」の実践率が高く79.0%となっている（「いつも実践している」は40.3%）。

■ いつも実践している □ たまに実践している ▨ あまり実践していない □ 全く実践していない ■ 不明・無回答



【地域別】

各地域とも最も実践率が高かったのは「不要な電灯を消したり、エアコンなどの温度設定は過度にならないようこまめに調節している」で 90%前後の実践率となっている。湖西地域を除き各地域では「ゴミの量を減らすよう工夫している」の実践率が 2 番目に高くなっている。

「短距離の移動は、自動車を利用せず、徒歩や自転車を利用する」については、湖西地域の実践率が 49.2%となっており、他の地域よりも低くなっている。

地域別の実践率（「いつも実践している」と「たまに実践している」の合計） (%)

地 域	省エネルギーについて家族で話をするがある	不要な電灯を消したり、エアコンなどの温度設定は過度にならないようこまめに調節している	電気機器を購入する際、価格が高くても許容できる範囲であれば省エネ性の高いものを購入する	短距離の移動は、自動車を利用せず、徒歩や自転車を利用する	自動車を利用する際は駐停車時のアイドリングストップや急発進の抑制などエコドライブを心がけている	ゴミの量を減らすよう工夫している	買い物袋を持参している
合 計	55.8	90.6	71.3	66.4	67.7	79.0	65.3
大 津 ・ 志 賀 地 域	51.5	92.1	70.7	71.5	65.8	77.0	67.7
湖 南 地 域	62.4	93.2	73.7	69.4	70.1	79.3	67.6
甲 賀 地 域	55.4	86.3	65.2	58.8	70.8	78.8	53.1
東 近 江 地 域	51.1	90.5	71.7	64.8	67.6	80.9	62.5
湖 東 地 域	62.8	89.4	74.5	68.9	66.1	79.5	70.0
湖 北 地 域	54.9	89.7	70.1	64.3	68.2	81.9	66.7
湖 西 地 域	50.8	87.3	71.8	49.2	62.0	70.5	67.6

【性別】

男女とも「不要な電灯を消したり、エアコンなどの温度設定は過度にならないようこまめに調節している」の実践率が最も高い。「自動車を利用する際は駐停車時のアイドリングストップや急発進の抑制などエコドライブを心がけている」を除いて男性よりも女性の実践率が高くなっている。特に、「ゴミの量を減らすよう工夫している」は女性（84.0%）が男性（73.4%）を 10.6 ポイント上回っており、「買い物袋を持参している」は女性（75.4%）が男性（53.7%）を 21.7 ポイント上回っている。

性別の実践率（「いつも実践している」と「たまに実践している」の合計） (%)

性 別	省エネルギーについて家族で話をするがある	不要な電灯を消したり、エアコンなどの温度設定は過度にならないようこまめに調節している	電気機器を購入する際、価格が高くても許容できる範囲であれば省エネ性の高いものを購入する	短距離の移動は、自動車を利用せず、徒歩や自転車を利用する	自動車を利用する際は駐停車時のアイドリングストップや急発進の抑制などエコドライブを心がけている	ゴミの量を減らすよう工夫している	買い物袋を持参している
男 性	52.4	87.9	67.3	64.1	69.3	73.4	53.7
女 性	59.3	93.6	75.5	68.8	67.5	84.0	75.4

【性・年代別】

男女各年代とも「不要な電灯を消したり、エアコンなどの温度設定は過度にならないようこまめに調節している」の実践率が最も高い。また、「省エネルギーについて家族で話をすることがある」は、男女とも概ね年代が上がるほど実践率が高くなっている。

「自動車を利用する際は駐停車時のアイドリングストップや急発進の抑制などエコドライブを心がけている」は、女性の 40 歳代の実践率が高く（84.5%）、男女各年代の中で唯一 80% 台となっている。

「ゴミの量を減らすよう工夫している」は男性の 70 歳以上と女性の 50 歳代、60 歳代で 90% を超えている。また、「買い物袋を持参している」は女性の 50 歳代と 60 歳代で 80% を超えている。

性・年代別の実践率（「いつも実践している」と「たまに実践している」の合計）（%）

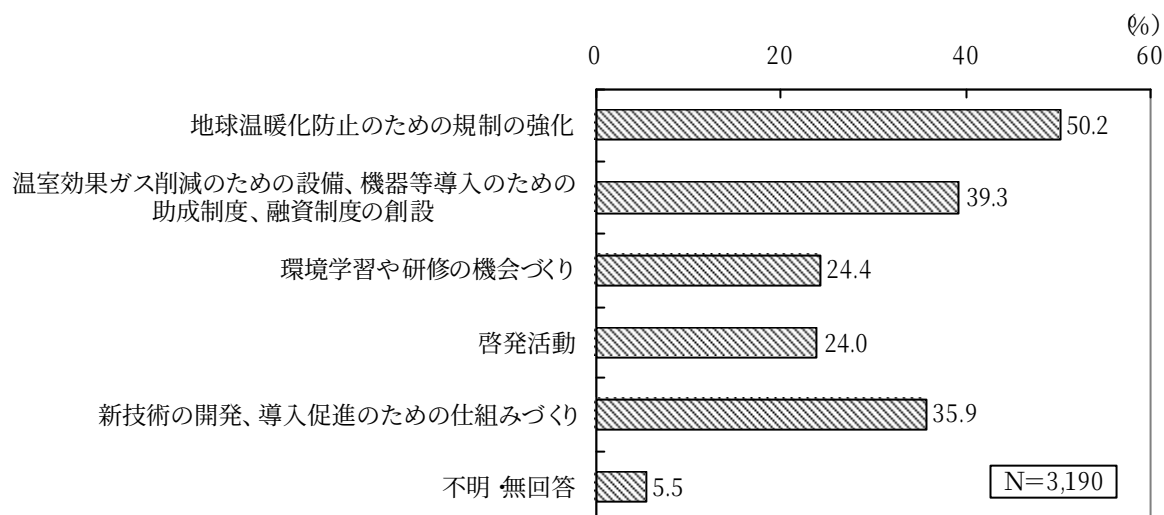
性別	年 代	省エネルギーについて家族で話をする ことがある	不要な電灯を消したり、エアコンなどの温度設定は過度にならないようこまめに調節している	電気機器を購入する際、価格が高くても許容できる範囲であれば省エネ性の高いものを購入する	短距離の移動は、自動車を利用せず、徒歩や自転車を利用する	自動車を利用する際は駐停車時のアイドリングストップや急発進の抑制などエコドライブを心がけている	ゴミの量を減らすよう工夫している	買い物袋を持参している
男 性	20 歳代	28.3	78.3	61.9	55.4	66.3	52.7	25.0
	30 歳代	33.9	80.6	54.3	53.8	64.5	62.3	44.7
	40 歳代	56.3	89.9	69.3	64.0	68.5	70.5	45.8
	50 歳代	56.4	91.6	67.8	66.8	73.4	77.4	60.1
	60 歳代	61.1	90.9	72.5	62.6	70.6	78.2	65.3
	70 歳以上	66.2	90.7	72.6	77.2	68.7	90.2	69.7
女 性	20 歳代	35.9	94.1	60.0	56.8	72.7	67.7	56.4
	30 歳代	57.8	90.9	77.0	61.1	70.5	75.1	69.5
	40 歳代	65.3	97.0	82.0	70.5	84.5	84.5	77.5
	50 歳代	62.8	92.3	83.2	71.3	72.4	90.4	81.8
	60 歳代	69.1	97.0	82.5	77.8	63.4	93.5	84.2
	70 歳以上	58.5	89.9	62.3	71.3	41.0	86.5	76.5

②地球温暖化防止への取組として重要なこと

問 14 あなたは、地球温暖化防止への取組として何が重要だと思いますか。
(○は2つまで)

■「地球温暖化防止のための規制の強化」が 50.2%

地球温暖化防止に向けた重要な取組としては、「地球温暖化防止のための規制の強化」が最も多く 50.2%、次いで「温室効果ガス削減のための設備、機器等導入のための助成制度、融資制度の創設」が 39.3%となっている。また、「新技術の開発、導入促進のための仕組みづくり」が 35.9%で続いている。



【地域別】

甲賀地域を除き各地域とも「地球温暖化防止のための規制の強化」が最も多い。甲賀地域では「地球温暖化防止のための規制の強化」とともに「温室効果ガス削減のための設備、機器等導入のための助成制度、融資制度の創設」が 42.9%で最も多くなっている。

また、湖北地域を除いて「温室効果ガス削減のための設備、機器等導入のための助成制度、融資制度の創設」が 2 番目に多く、湖北地域は「新技術の開発、導入促進のための仕組みづくり」が 38.7%、「温室効果ガス削減のための設備、機器等導入のための助成制度、融資制度の創設」が 32.8%となっている。

【性別】

男女とも「地球温暖化防止のための規制の強化」が最も多く、次いで「温室効果ガス削減のための設備、機器等導入のための助成制度、融資制度の創設」が多くなっている。

【性・年代別】

男性では 20 歳代～50 歳代で「温室効果ガス削減のための設備、機器等導入のための助成制度、融資制度の創設」が最も多い。60 歳代、70 歳以上では「地球温暖化防止のための規制の強化」が最も多い。

女性では各年代とも「地球温暖化防止のための規制の強化」が最も多い。20 歳代～40 歳代では「温室効果ガス削減のための設備、機器等導入のための助成制度、融資制度の創設」が 2 番目に多く、50 歳代では「環境学習や研修の機会づくり」が、60 歳代と 70 歳以上では「新技術の開発、導入促進のための仕組みづくり」が 2 番目に多くなっている。